

食品の安全と消費者の信頼確保を 目指す食品トレーサビリティシステム

大野次彦* 伊藤正人**
宇都宮国光* 白坂時雄**
植松雅男**

Food Traceability Systems

Tsugihiko Ono, Kunimitsu Utsunomiya, Masao Uematsu, Masato Itou, Tokio Usuzaka

要旨

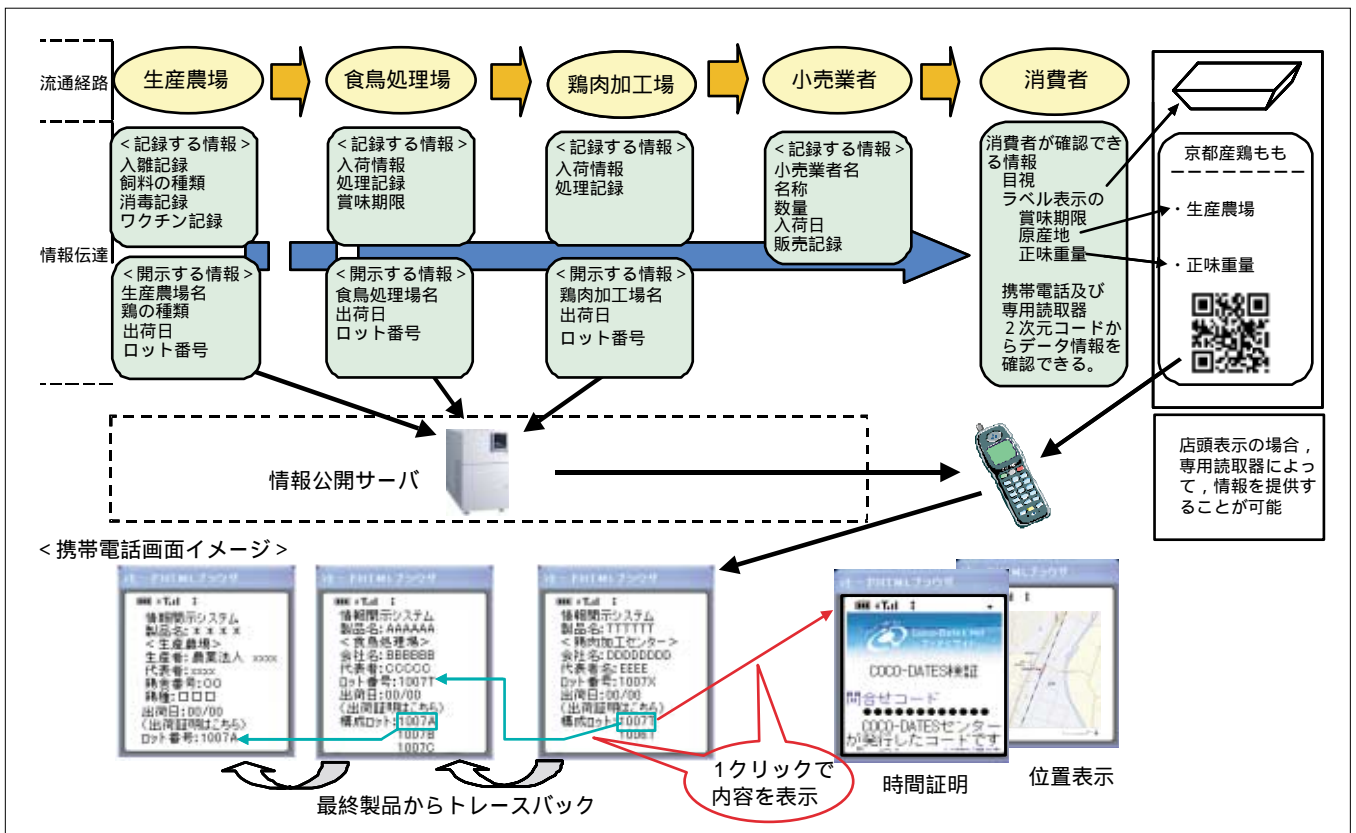
京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会では、食の安全・安心の確保に向けて、鶏肉トレーサビリティシステムを構築した。

このシステムは鶏肉の流通経路である生産農場、食鳥処理場、鶏肉加工場、小売までの一貫した情報収集・提供システムであり、生産農場、食鳥処理場、鶏肉加工場の情報はパソコンから入力される。入力された情報は情報公開サーバに蓄積・保管される。消費者は購入した鶏肉パックに張られているラベル(シール)に印刷された二次元バーコードを携帯電話のカメラ(バーコードリーダ)で読み取り、インターネット経由で情報公開サーバにアクセスすることで最終のロット番号に対応した生産・流通情報(出荷日、場所、構成ロット)を検索できる。この構成ロットから順次

一つ前の段階のロットにさかのぼることができる。

トレーサビリティシステムにおいて情報の信頼性が最重要である。今回のシステムにおいては当社の位置・時間証明情報サービスである“COCO-DATES”を採用し、出荷日時・場所の第三者認証を行っている。また、使用機器は基本的にパソコンとラベルプリンタであり、生産農場においては機器の導入をせずに紙だけでの運用が可能なので、小規模事業者でも導入可能としている。RFID(Radio Frequency IDentification)などユビキタス・コンピューティング技術も活用している。

今回は鶏肉に限ったシステムであるが、今後は他の食品トレーサビリティシステムへの展開・拡大を検討している。



今回構築した鶏肉トレーサビリティシステムの概念図

生産農場、食鳥処理場、鶏肉加工場での入荷・処理情報はパソコンから入力される。入力された情報は情報公開サーバに蓄積・保管される。消費者は購入した鶏肉パックに張られているラベル(シール)の二次元バーコードを携帯電話で読み取って情報公開サーバにアクセスし、ロット情報を順次検索することができる。